

【2020年花粉シーズン後、新たに舌下免疫療法(SLIT)シダトレンやシダキュアを開始する方に】

◆今年のスギ花粉シーズン(2020年)を振り返って

① 2019年のスギシーズンは、当クリニックのある品川区の測定で、

スギ花粉の飛散総数、**2,476.7個**(昨年4875.5の**50.8%**)、飛散開始2月5日、終了4月6日

ヒノキ花粉飛散総数、**377.3個**(昨年1370.7個の**27.5%**)、飛散開始3月5日、終了5月5日

都内の過去10年平均の総飛散数の約4,000個と比べて、スギ花粉もヒノキ花粉も、少なく、特に、スギ花粉飛散開始は例年より早く、暖かい気候の影響を受けて2月中旬から一気に飛散量が増えたもの、3月中旬には減少し、その後に飛散するヒノキ花粉の飛散量も昨年よりずっと少なく、5月5日にはヒノキ花粉飛散終了し、全体に見て、総飛散量も少なく、飛散期間も短いシーズンとなりました。

(グラフ参照)

◆今年(2020年)新たにスギ・ダニ舌下免疫療法(SLIT)を開始する方へ

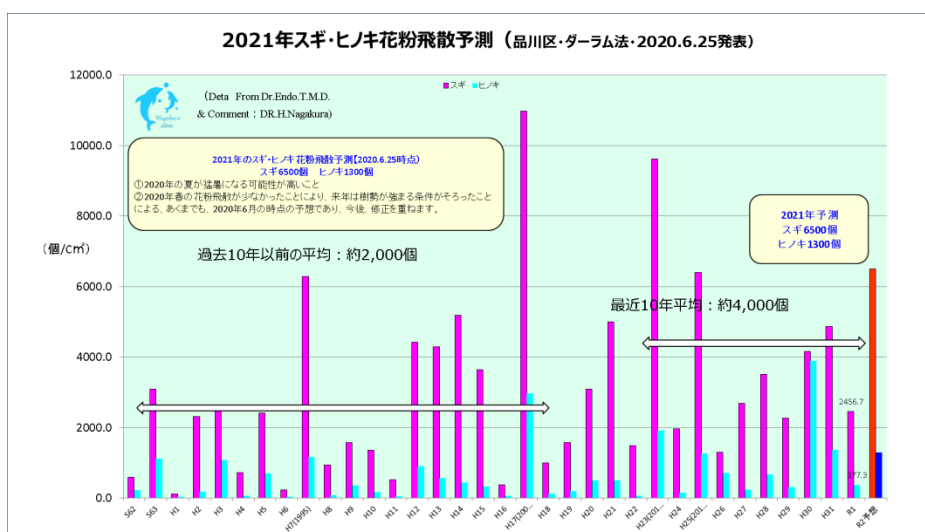
花粉シーズン中には、花粉が体内に進入しアレルギー反応が起こることにより体が敏感になっているため、免疫療法は開始できません。新たに舌下免疫療法(SLIT)の開始を考えている方は、今年のスギ花粉飛散も終了した5月中旬から、治療を開始できる時期となりました。

スギ花粉症だけを持っている方も、スギ+ダニアレルギーを持っている方も同じく、5月すぎから治療開始可能となります。

◆来年(2021年)の花粉尘散の予想

今年の夏が猛暑となる可能性が高いと予想されるため、また、今年の春飛散量が少なかったため、木が休息したことにより樹勢が回復し、来年は飛散量が増加する条件がととのってきました。

都内において、現時点において、スギ+ヒノキ花粉飛散数7,800個(スギ6,500個・ヒノキ1,300個)になる可能性もあると予想しています。



今年は、運よくスギ・ヒノキ花粉とも例年より少ない飛散ですみましたが、長期予報でも、今年の夏が猛暑となる可能性は高いと予想されているため、来年は、今年木が休息したため翌年は樹勢が強まる影響もあるため、来年(2021年)は、スギ・ヒノキ花粉の大量飛散年となりそうです。現在、スギ林に続き、ヒノキ林も、植林して30年たち、もっとも花粉生産量の多い樹齢に達したこと、さらに、現在の生産量の多い状態は、今後30年続くと予想されているため、2050年頃までは、花粉飛散のピーク状態の中にとると分析されています。

◆舌下免疫療法(SLIT):【シダトレン】・【シダキュア】・【ミティキュア】・【アシア】を実施している方へ

経過、治療効果を見るため、シーズン後の血液検査を受けていただく時期となりました。次回は、クリニックにおいで頂き、免疫検査を受けていただくようお願いいたします。

検査後の受診は、結果説明の為、外来においで下さい。検査の結果と症状の改善を合わせて治療期間を判断してゆきます。

治療状況をお訊ねする【アンケート】を実施する際には、宜しくお願いいたします。

◆【遠隔診療の curon】で、【シダトレン】を処方している方へ

【シダトレン】使用中の方は、2021年3月31日まで、【curonでの遠隔診療】による処方が可能です。しかし、【シダキュア】では使用できない状況です。ご了承頂ければと思います。

◆スギ舌下液 【シダトレン】は、2021年3月31日で製造中止となります。

これは、【シダトレン】が、2,000JAUで維持するのに対し、【シダキュア】は5,000JAUで維持するため、今後、より治療効果の増強し、利便性にも優れた、【シダキュア】へ切り替える方が良いため、2021年3月31日には、【シダトレン】は製造中止になることが決まりました。

【シダトレン】から【シダキュア】に切り替えるメリット

- ① 【シダトレン】が液剤であるのに対し、【シダキュア】は錠剤であるため、室温保存が可能で、持ち運びの簡単で、利便性に優れている。
- ② 【シダトレン】が、2,000JAUで維持するのに対し、【シダキュア】は5,000JAUで維持するため、治療効果もより増強した。
- ③ 【シダトレン】を2年使用するより、【シダキュア】を1年使用した方が治療効果が高いことが確認されていた。

【結論】

【シダトレン】で維持療法に入って、治療期間が3年～5年に達しない方は、より治療効果の高い【シダキュア】に移行する方が良い。

◆免疫療法は、治療に3年から5年が必要と言われており、根気のいる治療ですが、アレルギー体質を治してゆく根本的な治療です。服薬を継続して下さい。

お大事にして下さい。

2020年6月11日

ながくら耳鼻咽喉科アレルギークリニック(永倉 仁史)